1
2020
三重病院
ニュースレター
news letter vol.245

01 年頭のご挨拶
02 新年のごあいさつ
03 新年のごあいさつ
5病棟の生活のひとこま㊹
04 Medical Safety Letter 安全便り〈1月〉
世界糖尿病Day
外来診察のご案内

年頭のご挨拶

国立病院機構三重病院　院長　藤 澤　隆 夫

あけましておめでとうございます。

令和、初めてのお正月、皆様、どのようにお過ごしでしたでしょうか。

2020年が皆様にとって、素晴らしい年になりますことを心からお祈りします。

新しい年に

今年はいよいよ東京オリンピックですね。世界のトップアスリートが集まり、最高のパーフォーマンスをみせてくれる平和の祭典、とても楽しみです。オリンピックの準備には、いろいろたいへんなこともあったようですが、多くの人の努力が実って、大成功となり、オリンピックを通して世界がひとつになれることを心より祈っています。

医療は変革の時代

今、医学の世界では、研究の進歩で新しい治療がどんどん開発され、つらい病気に悩んでいる人たちが、すっかり解放されることも、ひとつひとつ実現できています。高齢化社会と言われますが、いつまでも若々しく元気でおられる方が増えて健康寿命が伸びていることも進歩のひとつです。しかし、一方で、医療費の高騰があり、経済の低成長、少子化などで、医療と福祉を支える体制が危機に面しているのも事実です。持続可能な進歩のために、みんなが智恵をしぼろうという、変革の時代と言えるでしょう。

いろいろな対策がされていますが、ひとつは地域医療構想です。将来の人口推計をもとに2025年に必要となる病床数（病床の必要量）を4つの医療機能ごとに（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）推計した上で、地域の医療関係者の協議を通じて病床の機能分化と連携を行い、効率的な医療提供体制を実現する取組みとされます。ちょっとわかりにくいかもしれませんが、今のままだと立ちゆかなくなる可能性があるので、必要な医療や介護が受けられない人がでないよう、病院の機能が低下しないよう、地域で話し合って、医療を提供する病院などの体制を変えていこうというものです。しかし、2025年が目前に迫る中、改革はけっしてスムーズではありません。しびれを切らした厚生労働省が、「再編統合の議論が必要な医療機関」（つまり、ダウンサイジング、集約化）を2019年9月に公表して、議論がさらに沸騰していることをニュースで見られた方もあるかと思います。

ぜひ、よい方向で改革が進むように願いますが、三重病院としては、地域に求められる医療を提供すること、とくに三重病院が「得意」とする分野をさらに伸ばして、皆様に喜んでいただけることを目指しています。与えられた役割をしっかり果たすことで、改革の一翼を担いたいと願っています。

三重病院の医療

三重病院は、小児医療、セーフティネット医療、成人の専門医療（回復期、慢性期）という3つの柱で頑張っています。小児医療は、救急から、感染症、アレルギー、神経疾患、糖尿病、こころの病気まで幅広く、それぞれ高度な専門性をもって取り組んでいます。小児整形外科、小児外科、小児耳鼻科も得意なところです。セーフティネット医療とは、さまざまな障がいや難病をもっておられる患者様への医療であり、民間の医療機関では行いにくいために、主に国立病院機構が担っているたいせつな医療です。そして、神経難病や慢性呼吸器疾患、糖尿病などに特化した専門医療を、成人の患者様に提供させていただいています。総合病院ではありませんが、それぞれの分野は全国的にみても高いレベルで、「山椒は小粒でぴりりと辛い」病院と言わせていただいてもいいかもしれません。

患者様のために

そんな三重病院ですが、今年も職員一丸となって、患者様のために頑張ります。ニーズに応える病院になるため、「何が求められているか」のアンテナも立てていますので、皆様からの忌憚のない声をお待ちしています。どうかよろしくお願いいたします。